街全体が舞台のカーニバル 仮面（マスケラ）の魔力

中世ヴェネツィアで貴族たちのロマンスによって
始まったといわれる冬の風物詩、仮面カーニバル。
豪華な仮面と衣装を纏った人々が繰り出す街は、舞台へと化す。
ヴェネツィアの歴史と伝統に裏打ちされた仮面には、
人々を熱狂の世界へ誘う、不思議な美が宿っている。

Photo：SIMEPHOTO／アフロ

Photo／©Corbis／amanaimage

〈右ページ〉細部まで贅を尽した「ジョーカー」の仮面。ダマスク模様が施されたベロア地や金糸など、東方貿易で栄えた共和国の最盛期を象徴する仮面。
上　ヴェネツィアの中でも最高潮に盛り上がるサン・マルコ広場の様子。下中　ペスト感染を防ぐために生まれた定番マスク「ペストの医師」。下右　強欲なパトロンの使用人「コロンビーナ」が華麗な街を彩る。下左　ゴンドラに乗って優雅に楽しむ人も。

仮面カーニバルとは?

日本語で謝肉祭。キリスト教の習慣で、四旬節といわれる時期は肉を食べることが禁止されているため、四旬節の始まる前は肉を食べて大いに楽しもうというのがカーニバルだ。1296年、中世ヴェネツィアで、貴族たちが身分を隠しマスクをつけて街で遊んだのが始まりといわれている。カーニバルの時期は、仮面と衣装を纏った地元の人と観光客でいっぱいに。運河沿いの貴族の館では、シークレット・パーティなども開かれている。毎年開催日が異なるが、今年のカーニバルは、2月6日(土)から16日(火)まで。

仮面に秘められた ヴェネツィアの熱狂

知られざるカーニバルの歴史と今。
ヴェネツィアに繁栄をもたらした仮面の存在とは?

Text / Lio Giallini　Translation / Chieko Kobayashi

地中海諸国では紀元前から冬の終わりと春の到来が祝われていた。その祭典で人々はよく仮面をつけていたものだった。1296年、「最も高貴なる共和国ヴェネツィア」はカルネヴァーレ(カーニバル)と呼ばれるこの祭りの期間の最終日を、共和国の祝日に定めた。

もう少し詳しく説明すると、春の初めは3月21日。この日を過ぎた最初の満月の次の日曜日がキリストの復活を祝うイースターだ。イースターの46日前が「灰の水曜日」で、その前日が「肥沃な火曜日(マルディ・グラッソ)」。現代のカーニバルは約2週間、この「肥沃な火曜日」まで続く(年によって1月末〜3月初め)。

何世紀にもわたって仮面やカーニバルはヴェネツィアに繁栄をもたらしたが、その理由の1つは肉欲だ! カーニバルになると人々は肉欲にふけった。仮面を利用すれば正体を見破られずに密会を重ねられた。男は女に、女は男に変装できた。カトリック教徒は仮面のおかげで周囲に知られたくないことをする自由を手にした(もっとも貴族の子女を入れる修道院では、仮面をつけた人間がいつでも自由に出入りできたが)。

しかし、理由はそれだけではない。カーニバルでは庶民が上流階級や権力者をからかうことが許されていた。つまり仮面は社会的な機能を果たすもの。緊張をやわらげ、誰もが平等な社会に暮らしているという錯覚を与えたのだ。「バウタ」をつけるだけで人々は同じになれた! 金持ちも貧しい人間も、ヴェネツィア市民も異邦人も、貴族も平民も…。

カ・デル・ソル

Ca' del Sol　M5-3E

古書の挿画から着想 表情豊かな仮面たち

店内の壁という壁、棚という棚に仮面がぴっしり。この無数の仮面は、小運河を挟んだ向かいの工房で、ピエトロ・ロンギなど中世の画家の絵に描かれた仮面にヒントを得、土や石膏で型を起こし、紙を張り合わせて作り上げられたもの。仮面はアイディアと職人技の結晶なのだ。

Fondamenta Osmarin,
Castello 4964, Venezia
☎041-5285549
営10:00〜20:00
http://www.cadelsolmaschere.com
ヴァポレット サン・ザッカリア駅から徒歩4分

右　女性用の仮面「コロンビーナ」。これは子供用持ち手付き。€65
上　仮面の製法は中国から麻布をベースとした方法が伝わり、その後、革製、そして1900年代からは現在見られるようなカルタペスタ(紙張り子)が主流。着色しやすく、軽く丈夫なのが特徴。
下右　スワロフスキーやレースを施したエレガントタイプ。右€250、左各€180。
下中・左　紙の質感がよく分かる仮面。このままでも、あるいは好みで着色、装飾をしても。

理由はまだある。ヴェネツィア共和国は重要な交易の中心地。市民が多様な文化に親しんで異なる宗教や人種を受け入れていたヴェネツィアは、東西ヨーロッパが交わる地だった。これはヴェネツィアならではの特徴で、商業と娯楽を大いに発達させた。船乗りの技術が優れ、アジア人と接触し、ユダヤ人やイスラム教徒の商人を受け入れたヴェネツィアは「商業、交易、楽しみの永遠なる中心地」として栄えた。

ヴェネツィアは異邦人が安心して滞在し、取り引きし、快楽を味わえる場所だった。市内には彼ら専用の巨大な宿「フォンテギ」が数多くあった。しかし「フォンテギ」は「ゲットー（隔離地区）」に変えられる危険をはらんでいた。ヴェネツィアには社会、政治、宗教的な議論が起こる可能性が常にあり、混乱や暴力、犯罪の原因になりかねなかったからだ。市内にはいち早くユダヤ人のゲットーが存在していた。これら議論の芽を摘むのにも仮面は役立った。仮面は多くの商人に交流の場を、あらゆる人間に行動の自由をもたらした。市民の生活、ビジネス、政治、外交の真の原動力だった。

ある時期にはヴェネツィアでは公式晩餐会、特別な祭典、劇場や役所での仮面着用を義務づけられたことがある。しかもそれだけでは不十分だったらしくカーニバルの期間を延長。10月5日にスタートして肥沃な火曜日で終わり、イースター後に再開して6月半ばまで続くようにした。

一方、カトリック教会は仮面の行き過ぎた流行には反対で、カーニバルが長く続くことも嫌った。やがて仮面は神聖な建物内では禁じられ、宗教的な装束と組み合わせることも許されなくなった。ナポレオンがヴェネツィアを侵略した1797年、仮面は禁止された。オーストリアの支配下にあった時も、第二次大戦のムッソリーニ時代にも禁じられた。

1979年、衰退していたヴェネツィアのカーニバルは復活した。今では年ごとのテーマがあり、各国から寄せられた仮面から最高賞が選ばれる。とはいえ、ヴェネツィア市民はスポンサー頼みの新しいカーニバルを疑問に思っている。ビジネス色が強くなったカーニバルに心がかきたてられないのだ。世界からやってくる膨大な数の観光客を受け入れながらも、都市の精神と市民の心を失わないようにする。これがヴェネツィアのカーニバルの今後の課題だろう。

Lio Giallini ©リオ・ジャリーニ
1956年イタリア生まれ。コンサルタント。'75年、理系高校卒業後、モデナ、トリノ、ローマの士官学校で学ぶ。'80年よりイタリア軍に所属、陸軍工兵部隊のインフラ整備、橋の工事を専門とした部の指揮官を務める。'86年、大尉として退役の前、米ワシントンD.C.の国務省で特別な任務を果たす。'86年から'95年にかけて、ミラノ、ヴェローナ、ローマなどの民間企業で、マーケティングマネージメント、ビジネス研究開発の責任者を務める。'91～'92年、パドヴァの私立専門学校で経営と人事を学ぶ。'95年より日本在住。イタリア向けのビジネス開発などのコンサルティングに従事。その傍らでイタリア語講師も務めた（ベルリッツ、龍谷大学など）。

上右　最も伝統的な仮面「バウタ」。もとはカーニバルのためではなく、東方貿易などで多民族が入り交じり、雑然とした時代の中で身元を隠すために生まれたそう。突き出た口は、声質を変えるため。
中上　昔、貴族の女性たちが好んだシンプルで華奢な仮面が今人気がある。右€65、中€140、左€46。
中下　「バランゾーネ」や「プルチネッラ」など、ヴェネツィアで人気を博した即興喜劇の仮面。左　ロマンティックなキャラクターで、現実の世界に涙する「ピエロ」のマスク。右€35、左€65。

アトリエ・マレガ
Atelier Marega　M4-2A

ハンドメイドの美しき マスクと衣装に魅せられて

伝統的なマスクから、ディテールに凝った仮面、喜劇用のシンプルなものまで、バリエーション豊か。仮面に加え、店内奥のアトリエには、17～18世紀の優美な衣装やヴィンティージアクセサリー、靴などが並ぶ。衣装はシーズン中で、1日€400～。ここで全身一式をレンタルできるのも魅力だ。

San Toma' Calle Larga 2940/b. Venezia
☎041-717966
営10:00~19:30
無休
http://www.marega.it
ヴァポレット サン・トマ駅から徒歩3分